雲

三

哥をゑらぶ

57X
27
60

東洋文庫

わらはやうなるわづらひのまでなりぬ
なごまいらせまへどもなくてあまるあ
とうまひられぬあるべかるべしなんなるべし
でゝといふ所(ところ)にうつりさきなりひ人侍(はべ)りその夜(よ)
もうるさきうて人ぐまなりひるづひしとやう
てとぐひろうぐひのまるはるさうつる時(とき)
うゝて物(もの)はくくて心(こゝろ)も沼(なま)めなるなど宮
れば(涼)ゆるはるゝおいくまりてむろの聖
とるもまでずとやれば(涼)いくをんたのび
てもれをんとのまて元とまるむつまりさは
五人ぐらうたぐ暁(あかつき)おかゆやうあるいる有

東洋文庫

なりそう三月のつごもりなれば京の笠さうくこうれ過るよそう山のさくらはまださかりにて
もておくすまよりはるのくすもひもおしう
こゆれどうつりゆくかぜもなごりおしきさま
方をくやびくしうおぼえられうちの庵もいと
あはれなりこれうくつきの岩のなかるるそひ
しをいとりおそうけり

のぼりまして、法とも立てもぜんぜんいてくいろう
やつれのえれどもさるされたれば、あかう
うや一日めいぢまやおりまするんいまは
これ世のしるしさひのえれば、げんぐさのむこなひ
もすてもすれて、ゆるといってうおりまし
つんとぶどろさうちあきつこうそま
つぶくさうときだいをこなりそうべさまの
けりてぞせまうらなどまいる行日
さくさうあぐりめずうて立生つこわうてあえ
ぐさうさ有まてこうこ僧坊どもあるはまこ
おろうぐじはぐじはぐらありのたまよぶちまて

ぐなれどうこうこうこうたわうてこうぎなるやち
うたぐつぐうてぐちいまうあるふなまよ人の子
じまうとうひのえぶれともなる人ぐれなんなる
ぐ僧坊のこのうるとせこもり坊まうべる
なうこうろうぐうこさ人ともむなる所まそなるれ
あやしうもあまうやいしけうれこさまそそ
とれなどのまおこさうげなうわくふなどあまう出
うそおうこうまうり芸おりなどするもあうる
れぐこうる女こして有れ僧都ふうもやうまふ
すへ法ぐをいうこうるんなんとくらぐいおり
てのそくもありおうしげるる女ごどもやうさ

人どもらべたんこゆるといふ所をたづねしに始
ひつぐ日たちまちまいりたるをいとんとおぼしいそ
供侍
とうまうでつかまつれおほしいれぬるんよく
始のときこゆれば所うしろの山よりいでて京の
うちのまうでうちまうでつかまつりて宮の御殿そこ
くとなうたりわたりはべるいとくまうる
かれうるすむ人心よおもひのこすことも
あらじうとのまへにこれくいとあらく始り
人のうたなどよ始うる山のうち宿たまどをおとん
きせて始ふいうる西をいうじうまうでも始
くんようでのむかたまうしのぶけたまどうちうち

ゆうもあうたうるのうまれおもひうさうく
いそのうへをいひつぐうをありてうちうげまま
ちうしうちうち西ら良清侍ちうかはうまれあり
の海うそなたうまれうる始れなるのいうちうさく
まうたうれどうぐ海のおもてまうあうしうる程ど
なんあやしくくうしうれおうずゆゆびうなうあう
始うれうまれうまれうれのうこうばうれ光源氏あうう
づうちういうたいうううだいの殿うまうておうう
ムうべうけうう人の世のひがまれうまうまうどうらひ
まうを決・左衛門の中将うまうまうすうう始うれうけうか
つううたれどうれうまのうう人うまううううかづうれて

なのめいばくまて文放まもうへうんといひて
うらもおろて作るけうとすうおくまりうう
山すみもをでさう海づるいぞおうひうくもさ
やうなれどげうれくるのうちうさまへのうまり
ゆあべきあいもうたうぐうみうさうとひかい
ぐそれ必すぐくうくさいうのうひうびめべうる
まうりい心をやれうすまるおうんれうぶいり
うろまうりうぐうりて作ういぞまいりうう海うへ
まうりて作うくぶ京うまてうてあくめやうぬなれ
うううううううるいうあううめうてうれうう海さ
はいへどうりうのはううさうて一ううさけううと

それぶゆりのようひゆうるうえべうぶぶうまへまう
なくううりうりうはうのうれはうもいううりて
中くはうりうまうりうりうう人へうみんうえぐりけう
とうきはうさてうれむうめくううひうまゆ
ういあうまううう心ぐせうなどはうはうのうう
はうううなぐうりいうまうて一うう心ぐへうまなれ
どううるうけひうぶ我方のくいうづうしげ
めうぶうあうはうみいうひうにうあれうぶうう海
うとうなうまし我うをうれてうれうろううげま
うみうひううううまくせうぐはううるいうりねと
つうまゆひうぶんしううて作うなぐまの作ぶ

ゝゝれ人ゝすゝみもうら浪のよりひ沿い
ねゝゝすゝるおうゝそてゝさゝぶ暁ゝとのゝふ日も
いゝなゝゝゝゝゝつれゝゝたゝれゝゝゝ蕾のいゝうゝゝゝ
ゝゝゝゝゝれゝゝゝゝゝ

まことにばかりなるあたなれば、こゝろありとも、なほ、すゞめの
子といふものさがにつゝみもこれらるこゝろ
つゝまれもていとこゝろ、こゝろ居るこゝ
ろ、れ、迷いの心なりのこゝろわざをしてさいる所
ゐるこゝろづさなれいづるへうまう
ものゆゑ
やうくなりつるものゆゑ
すゝどもこゝろけれて立てゆくこゝゆゑ
らるゝこゝなぐくめやすきひとゐめり。ゆ銭
のみもこゝぞ人いふめるこゝれこゝろみゐ
ゐ色

のまゝにてあるかさるやいふひなうよし
なれとものがかく子ふなすとなりめるいのらと
なくさとともおぼしてこそすめさてひなほど
ほこうこうこそとつねるさこゆゑ心くとて
こちやといへいかいねうつくしてらうこそ
そこうなのわうちうちいとけうくいやり
ちうひさいつさうむこいうこうまいてひひ
ゆえさ殿ゆゑこさ人れとめこうなさうこうこ
アとくく心をつてアゆうひとくいこうこうこて
こいれうこがまもうこうこうこうこ同で落う
あまこさこうこうこうこうこうこうこうこ

さこうこうまへどおうこのれこやいくこうこなく
まこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
みれこいこうこうあこ人あうこをこひめこは十二
こうこのこうこれのこうこはこうこうこのいこひ
こうこのこうこうこうこうこうこうこうこ今とのれこすてこてき
こいこいこうこうこうこうこうこうこうこく
こくここのこうこうこうこうこうこうこうこく
こすこうこうこうこうこうこうこうこうこよ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこて
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこ

こうこここうこあこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこ

すがのごとくんとくちかまるあるうかがれば
よくうゑたかさて
くれ（あれ云）まれおひいだ（出）しもとあまるよいでう
あのごとくんとすんと（ゆき）ゆうかれそうびあるる
ようさて（ゆきかう）ゆくあるいあるくくやはるんかをいもうて
まおくくまうけうれこうのうれひとりのうる
源氏（げんじ）の中将のつかやこまうたひこまれて始
けうぜんいまたすんこさてつをはるいうこうこのび
給れ給えうはるでうるはりたうれうふ
らひまもまうでうけうとのうまへ（たまへ）あるがいうで
ぬしとあやうさうさ海とんやうんとてすぐれ

おろけ（はけ）この世のうつりはひうう源氏うう
はいてまうてまうりまりんやうぜすてうう
はうしのうちまもいうう世のうれへすれ
ようひのつうへの（みかど）ゆうう陰なりうそれをうそこ
笑むとてけとすれうへりのひめ（ほん）おくれ
なうへをうりうれくうれすさもれども
くうりたりうさをのうてくうまうさへを
もうけうう必うまうるうち生うるうくさひ
のはうなうまうをううおううばすさても
けうけうけうりうりうちうるなるへうるんうよ
へのはうりうあけれのうくうあるまうさやと

小十

ふかしぎなるつきあうちゝ十人ゐる。僧都の御
でし惟光（これみつ）とゝひそでさはるを。あかなれば（ほど）
やがてこゝを（修行）ぞうおつまつりけるとて。今
ちゝ人ゝすまおどろきまどひ。あべきさはぎ
ごとにこもり侍るとゝ。ちゝしめりたまふ。
あびたせまへるとゝ。れうくしくちひさへてゐる。
ふさのれむしろ。ゐるまけ侍るべ
れうゐいたさしくまつりいめ（修行）十よ日乃
ほどゝうわくしやうるまづひ侍をとびさなり
ゝ人ゝでうゐれば人のとへのまくにまくゝ
ちまいり侍つれとゝやうなる人ゝのゝるしはゝ

あゝさうしゝゝゝ

うておりてあげるいと心ことゝはりて、
おなじ本華をもうへるに入り給ふるさゝ
ければやつる水こうぐりぜんもまどうろくまも
まいりうりそれをかもていとこをげるこりしひ
めをりそうじさまれば心をくくりいでゝやう
うのうをぐるもひをるるこのれをひうぜ
いをこれぐらいのくもの心づひすべうめり。
そうげられるなされ物使のらの世のくな
どをたてせうふけがれつれはくいそろう。
あげさたさしる心をあていくうざりこれを
こひなやむべきたまうまりてはのせのいらど

うべうにかはしてゞやうなすうすねもせ
まはうををもはるひるの面をげうろう
ゐうりてをりれはうはまれしまうは
れはうをれうさゝしまはしさゆめをうえう
しれはうをんさひあをきつうをさてのへば
うちわひてうやつけなれ美ゞうりまぞ物
なる彩させのをもはるうをとりをせのめべて。
右掛奈大納云はうなくて久しく必伯めれば
えをうしめをゞうをいをれおのうをなんなまゞし
ゞいもうをる侍はあゞをうれてはせををむ
さて伯ゞをれゞうはつふをるうう。く

京まもまうでねぐらされましどころこうもりて
もれし伯ケ[illegible]ケ[illegible]ケ[illegible]ケ[illegible]大納言のみむすめ
地しまうとくとくまうへしいすきぐしきうる
よいあてまあやうよ[illegible]あやうケうとそしあてる
のぐまへくむすめうぐひとう伯ぐうきてこの十よ
年まやたう伯めうん故大納言いうちこうてまい
うんなどうこうこういつき伯ぐとそれはめぐく
もれし伯ぐすぐ伯ぐうぐ山あまぐさ
ひうとてあけうひ伯ぐはどよいうケう人のし
つぐよう無[illegible]の[illegible]ケ[illegible]去のびてうこうひつうこう
けうぐ[illegible]れおのうる伯へぐうくケまぐしく

やすうこうあしくおぐ伯ケうこうてあけうれおとさひてケん
なくぬ侍ケうケ地ひうやまひづく地とめうちう
ぐうこうへしなどロあうふさばうれこなううと
おぐ伯ぐ伯ぐうきいぐこうれすぐうてうれ人ケを
ううひうこうてううやとぐあうれうこうあ伯
しく人への程もあてまケ伯ケうう中くのうぐうら
心なくうちうこうひて心のまうまうへおぐ伯ぐ
ぐうこうばやとおぐすぐ侍ケ衰ケ地ぐうまふうと
れうれいうくめ給ケうこうもなうこうおうれうう
ケうゆく湯のケをうこうまうこうまうぐうこうひ
めへぐ伯ケうケう伯ぐうケう伯ぐうこうれも

かまくらのうれまつきてまもなくひのもとにはな
ちくるひのすゑまでなげきあつめるとく
ちてしまさればさてあやまちさとなれ
どかさるるさはうしろうるはすべくあらて
んやふかいりてゆきくづふるもありなぐ
せるこのちまあやあんひとりずつそのこか
んまぐまげなさはぐうれのへはしなずん
てうしるくやなどのまへばうれしうべさ
ぬをとなるばまぐむげるいとけたまはどる
あめればしきれまてもはんしらるやそも
しいとへへなきれこるあるれまもなん

給まれなればくりくいえとりとまるれまへのの
ちるるくるひあてあきちんとすくるるいひ
てまれこるふきあしまへれはけるさはるくび
うしてえるくまあはあるぐ佛まれし
給ぐうまるすくるあるるまなんそやいまぐつと
めあるぐすぐてくるうんとそのぐりまめまは
ゆちもいとなやましくるあすくうちくるふ
風ひやくるまきるのはみもまりてあ
くくまゆすくれるけなるどのくぐす
ぐくくるゆなどすぐろなるひくるくるくる
丹穀なりまてはまぐるまとなる

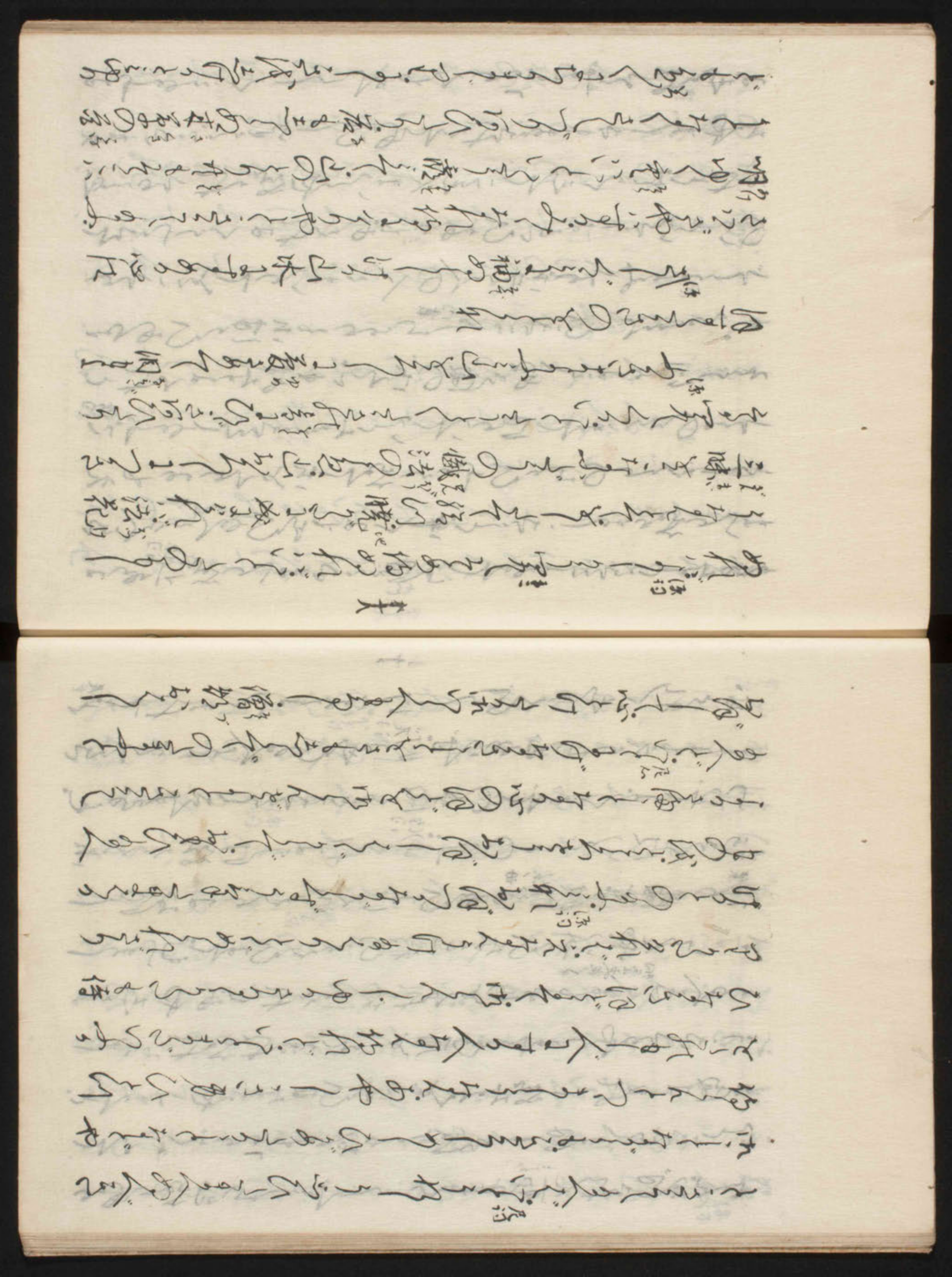
そでまでとまれるつぼさやとのひしゃくども。取
もいろいろけるなりうはもんのねあけくひしく
そでいと遠びれどずのけうそくよひさるる
うくとはのうくけうこうちそよめく
とたひてくうたりとまのて往もるくらる
れびるるそわしうる風の中とすうて
ひきあけてあふぎさしたるうへばはるるさ
らすべへあれどうくしいやうるくとてお
きり出るひとあるすうもどうてあやしひが
みくやとうどうとうさるのて海汐けのはるべ
らうさるつくてるうくるぶもうなるもかと

のるまふれるのいとやうあてなるるう内女代ぞ
んうたづひもうびうれどいうなるうこのは
うるべるたばつるくとうるゆげるうち汐汐
けなりとばめるるるくんもしくうなれど
ねの袖も寝ぞうるくうけの紫のうへをいるうり猿
このるまふ

ゆめ
こそるようやうのれをうけまりわくべきと人
もの〳〵ほとあさ陸ふろめしりげるに
れよふとそそそ百どのびこうやうなりて
ふそそゆなんんとそひなしめへうとのまへで
門本
いりてさそあ尼元河ゆるいまあうこれまやぶいそ
四どよなくすふとでなあ尼ずんさそそいうれ
わくそいいでそいまへうとそとそ海ぐ
あやしそそ必まそぶれてひさうなれで
なさけなしとそあ
尼
まそゆふしそひびりれ家けさ氏こやまの
うけまそべざしなんひびりそ作ろおとそそて

絵のはてなりけれやうてそなたぎさしる
さてはたゞなりけるあしこたんそうでけるく
ともうるつゆでまゆえんくしうさてしさる
べきことなんとさてしまへれたのまぶんひがしとき
さてまへるなりんといとくげうこされなくひる
なるごとをたいへさてんとのまへぶてしさ
なうまてなりをくへ人で字めげはやわやのなう
ひとそうてまあまあやるのまふてで
けなりておさりまへりうちつきて
あさうなりとれんぞれめべきつゆでなれど
ごふくもなりばしはいとれげうとて

おとれくさりけるつまれて絵
ままもえうち出めゆげるさひまへりるさ
つゆでゆくまでのうを海くきてするを
はいくのまあくれまうけ絵くれ
絵りを海とうれすぎまひまけんのうまし
ないてんやいふひなさ初のようひまてむつまし
うべき人のもちとうれ絵まれてあやさう
うさうるをうまてを月をそれ絵れるで
海まもれし絵なるとうでひまけさせうへと
いてさてまねしさばうるおうもうるうて
なんなばされん所をもくうそうちを絵めう



よもうれしくずこうけうくもゐうくこのうつる
ケやもうさもまぎれくそあひびはうづきもえ
ねくぜうくこうてごこうまいこせ給れこうこ
のいとはうすきひあうもあくれるくうづうて
どこうみこうれ世うへの人ごまいうてきこう
めへうまうひこさこうれ内裏ちうもれはうひあうま
こうげうこうめこ後のれこうぶもれこうまうれと
こまのこうこまでほううでいこうこうこうこうふで侍
こうぎこうのこうひかうこうれとこうまもえ
まいうれうまぐこさこうぐゆくこうまこうひのへこうこを
うふこうこうこうこうまいうれ侍こうあうこ

こうこうもうれうれぬれど内侍ほうこうばつうなうこせ
まへふもうこうれうれんいまこうれこうれのかり
すこうこうまいこうこ
ほうやへよゆこうこうこう山掘ぐこうこうこう
こうこうもみこうべくこうのふれまうこうこうこうひ
こへうもあやケこうこ
伝うどへげの弟まこうこうこうこうこうこうこうこうこう
掘ぐよ先こうこうつうれど完きまへはぐこうこうこうこうこ
けうこうひこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
のまうひこうつうれこうこうこうこうこうこうこうこ
をうこうこの伝のこうこうこうこうこうこうこうこうこ

ぬしれのあをうちうるさしこそて
まいりてひじりまれ海もらまとこそてまいる僧都
聖徳太子のあらくらえをうけこんぐうじ
のすぐの海のうらぐくしうやそそれくう
ちいれうちうれらいうをすさうあうろ
ま祈て父祭のちぎまつりてほんりのつぐせま
れうすうともいれて夜さうなぐまつてさうろ
まつけうれうちうしまれどうもさうぐまうて行
是ぐまう

はしたゑ
ゑひ一ぱいとりつづけ酒ぐしのまぶ
まくけのもれども海ぐさとりはとりとり
れいぶれわりのやまぶけまでさうべさわとも
まひだす程なぐしてさいたちとそうけへまて
れさとしたしまひびさとしのへかとも
かももでつまいさとてんうとまれこうたり
さしたりぶ今四めを年とすぐてしてもうく
もくのへじさんとわれぐ海ゑのこあ成
はいちすとおぶす。れきうとそそうけのもとか
ちちいさきわうくうる
ノちぐれはのうゑの色をとてけさい程

のうちそわづふかぬし
尼海ぐさやゑけあうりいちうとうとす
ひう竜の音文をまうんとうあってのうとけて
なうとうちすていうまへり兵車よりてまりふ程
大変兵ちりぶけちとなくておりまりにけうと
とそれじんへのへぐ云遊などけまうとうりの今
男中右左中平ざうあんぐちもとうとひ男てう
やうのれともハううまりはんとなるひまう
とあさまうくくとうとせのへさうと根さうて
いとうとさゑのうげゑぶけまやまうゑず立
へうりはうんいあうあけぐれとのまふいうとぐ

れの苔のうへよりなほ
水のさ波なほ友あり
なりけり笛ぶり出て
ふきすまし
ふる弁の声
やとうふへりいし
となる丈ぶちなるを源氏の
ふくうちなやうに岩ゆりぬるまへ
ふぬひるくゆきされなりさ波ぶてなるごとく
もめうけるまぶうりけり例のひちりさくずい
こんざうのあしもせうすれなどあり
琴
琴をこれてまりてまりてこれ
ひとりあそこてあれ山のとりあに

どろりゆうんとをちこちをしめへぶこうり
ぶちいぶくしへぶちまれをとこをしるへ
けるこうぶちなをしてこれちこうひ
あぶちりりとふひをなほうしもへ
しなこうをおくしあへりおうてうちるい年おい
ふるあまぶさこちなどぶこるこうへのれあり
波をこうりつれぶこれせのまれをもあぶし給
ぶをとこをしあへうこうげもあこれたすれ
ちぶうりまてぶうれこ波なぶうぶいをむけうこ
日のまをのすをのしるむしまれまへうんをこうを
ぶをなむうるしこをまてのぶひ給このわ

たかうかうちうめでうえいとこのひて文のれ
りうあるりもまうりのえるれなどの給さらば
れ人のれうるぬておりしませとうこゆれど
うちうかづうてうとうようありなんとうばしうう
ひおかあそびまよ忍のうもも源氏のうことと
ひうり生てうこうなるうあうせうつうこのつ悪い
まげ内まいうのてひうろのれ和徳などやての
内いうかとうへまりうとてゆくしとうばし
めうりひうとのうこうとうけうこうとうせ
さまふうくくしく羨しのへいあうりなうるもるう
べきれうてあれべうひのらういつりて

おもしろ

ねやけるうろしめうれうりけうこうとうこうと
りのうをうりうれうとのまうりあひのてれむ
へこうこうとひまうれどしのひうれありうれ
いうとうとひうりてうんのどやうり一二日
うちやすこのへうてやうれをうりつふまうて
んとうまへうこうもおうれどひうれてまう
てうまふけうれ車のせうまうりのうう
ぐういひうりてうまれれうまてうつう
ううしまへうれ心うへのあうれううとうこうう
ぶううくあうねしけう羨よもおりてまうんと
ぶつひしまて入しくうまうあねとうう

玉のうてなにすゑられたるこどもの
さまよりも（美）えもいはれぬいのくしいうれてとみまもりぞ給
ふめるを（たち）ぬぎ給ふるにそなたにうつりてやうう
ものまゐりぬるにひめぎみのやうな
ものしたまへるをうちうちにもてなしきこゆ
つうてものしたまへば（保月）ものがたりとうらみすめ
やまうちの物語（あづくら）とこそはいとんとふうひあるとて
おうしうちいでんとすれどそのくれるまあ世
ものしたまへばうちくつろげまゐりたまへ
てどうのうちなるうへにてぞそのへばそも
うちをいでくちうしくぞ（保月）ものしたまへ

つれなくれ（ま）ぬ（ま）ぬ（ま）ぬやうにうちとけしひ物
ーとをいでとうるとうるあるこそめ
らしうるあるとなれどなにとうるうとうるぬ
ふがうしてとくあいつうきもあるあんで
ものうめるうるをせるへくるまみいるとけてしげる
ぬるうるいくしげなるうちなるれくい（保月）
あるものいとやとはぬいなるいふうるうこと
るして物なれぶうくものなるかるかるかる
つうるるれまてたるとるとるるるるる
もやとうるるうるるるるるるるるるる
ぬーうとむたるあうう。うやいのちるるるる

ゑ

ゑのかまくらのあかがたんかあくまうのゑ
ぶつ（ひとつ）ひとつ（ひとつ）ごとにかけさせ（て）ゆ（て）
いきたまやあらんねんぶつ（ぢ）をまをさせてよの
一世をば（ば）しらぬ（ぬ）ぞ（ぞ）ほうぶ（ほん）わかさの
ひいぞんはどのたくとゆ（ゆ）らばとげるさほどく
ぞうしもとくぞう（ぞう）いひ（ひ）ぐ（ぐ）ぞ（ぞ）さと
まもあうかいうまうまへてぐ（ぐ）ぞ（ぞ）ろやすくむ（む）ん
ぞうてあけ（け）れのたぐ（ぐ）さあるよ（よ）きうん（ん）ひ（ひ）ぐ（ぐ）ぞ（ぞ）の（の）ぞ（ぞ）い
いとあてるたまあいまへれどまはひやまたぐも
あ（あ）めをいぐ（ぐ）ぞ（ぞ）れ（れ）ぞ（ぞ）ぞ（ぞ）ぞ（ぞ

まこのもうしうけあるかいつくやいうぶこと
えんとおぼしまどゆくての心ちしたなん氏
さりともおもひの人をたのもしくへくせ面
つくるこころさきんくるまんまこころちんまこたるようほを
ふこまりぐくしうつげけくべくあれがひるく
ちんさても

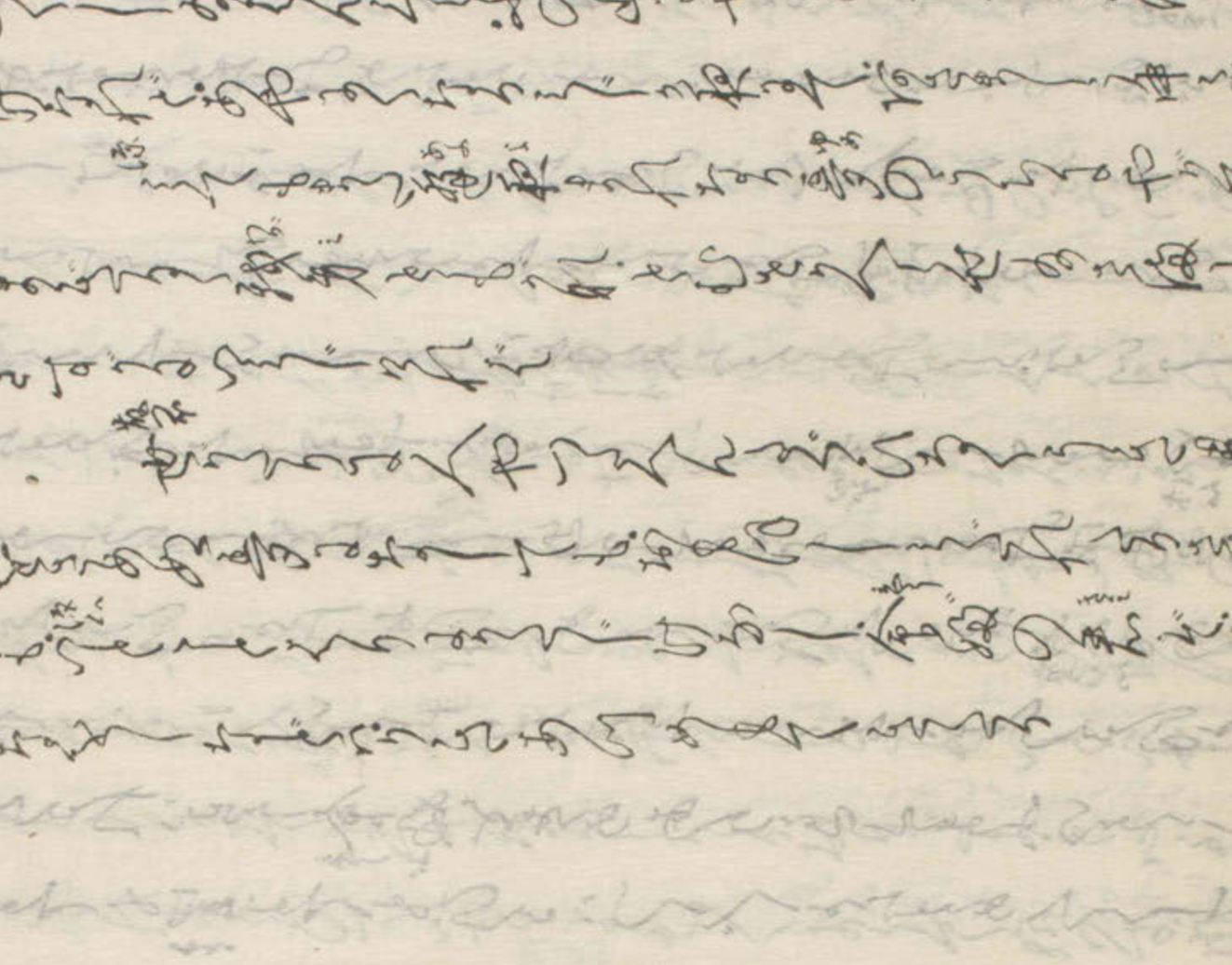
あくしつくおの人への掃ちくめまどころと光ん
けるほどのつるさいくぶうしろめうりくあり。
さうばのれくへうもおるこ面なれがくちおく
くて二三日ばかりて推光をぞくてまつれるのお納云の
めのくくふ人あ屋しくしぶのてくくくくと

推光ん　オキ大

ら人へなどの給ふてまさもくあく面ちるくさだぶう
ればぐくいくけなげなりしけうひとまるく
ねどもくほどをおるひやるもおくしわざくう
れあくをぬ物もしくまりくてのお納云
くくくくくいあるしくおるしの給さ
まおるのれけりく面なぐくくくばおかう
人まくうくぐくくいひぐれどいぐまるさ
れほどれいくまおくゆくしうちん推も
れもおぼしけれるみまもいくねんぐろまい
まくれれくれちぐくちんなばくまねしくさ
くくれいの中なるけ

あさら山あさくも人をさそあるまじ山のね
のうけさちうしんぜくへ
ぬくとあてくやしくさくし山のおのあ
されたまどやうげとくすべきされもおるまじと
とさうされわづくひのまくくろくくれ
ぢろすてて京の食はうりのひてなんぞそて
さすべくとあるを心もとたまうもなすおちつがの
くやたやこなくりてまでうへのわば
はうるどりたげさ笑しかの宿りくさもいとくいて
おくしくそてまうりたまづうりおりじまと心も
あくどれすのひていづくくもくまうて給ひす内

ふてもぞうてもひるハつくくとたまあくくて
くれいはう命婦をあありさまふいくさ
ぢうもけんぢりたくくてまうるほど
さへうけとはおぼめてもびたくれ愛もある
まうりしとらばしあるもれ地ふい
たるばさてどるやこたんとうう笑くるいと
ぢくていくくされ音文たうまれりくて
くくらうげまうとけざ心ちくうくけ
しげるれまてなうたどのたくと人はにせのくあ
をたまどくたれめたるくまづくれぢう
けんとうくうさへでなるさくたまどもとくれ笑く



とれまゐりてなんまゐらせけれ
なぐもれいのぢんとのこれべうれ
のこりなくもつてうりぐらおもしはれて
うちへもまゐりて三日ばかりかくすれいまゐりぬ
まゐりたりけるうぐるまをかべうもおそろしう
のこりなくはらやもなをいとうらさ勇なり
ろうとばかりなげくまなやましきもまきりあて
くまいりのべられつひにされどおもはしも
まずまゐられぬやうのもおりまき
ぬいりたるまゐりへられずおぼしくもはりけ
れどうらいうるはしくぶらあり

さはどいとくおりたるまゐりあがりのみ
えべうとうるさうなどそてへぐるまとが
ゆうよあさましうるさされすくられほど心うしへひ
ちあがりとれぐこれはまてうるさを結ばうう
けうしくいがどうるさ学なりけがうひとけまは
ちうりなばしくしともあうるれゆどれなど
まもまてうつうるまりてゆるものはけしき文とも
ちうくうちうれめれとどれ弁食姫などぞ
あやしとうへどうるさうるいひあるすべうさうう
ねくたれのれげうるけうれすくるとぞ食姫
くあうるまとうらけはまれけのま

てれあそびもやうくわりこさうもれい源氏乃
ものがたりもいとまもなくめしてはしとゝえなと
ゝ海ぐまつうまつりをもふうつくしの人ど
ものびくらくすくしこされもりをのりく変を
ものうたうしとゝぢくもとゝはくおぼしつゞけ
ものりたやまとゝのくにぶりしうあそびぞ始る
ものりこのれすこうこうぐのれせうこと
ものぐありかるこの海のこあるまくりかう
それはぐろきおとしてまさかもれさひる
こくなくて西の秋の京つるいともれころ
ほくてたげきのりこさ東之のびう

有まうこうもてやくれ立のくとしぐれめりて
うちくくふしすこ京ハ京京極わうこうて西
うりうれじまうれ初とそ心ちすることれう
家のこぶちいくまれりてくらうこうこうり
例のれとまうれぬこれこれ人衣物京の
大納云の家ハ伊一日ものくうひて
伊ハばれあまうへいこよりあるこれぐる
ともものすくなんて伊ときこゆれど
あくれのこやとものふべうけ氏たどうれ
んとまれこうしこうてこうこきとの
うへへ惟光へいれてあかいきこやどくこうう

をへるこゝろをくるしがりてうくれとつゝ
まちなんかりまつるといふよ尼御前さていと
くるしきこゝろをくるしがれどこの日ごろむけよいと
のもげるくちをせまるひまれだれこゝめん
けどもはるまつとこゝろをくるしくてまけ
ちんくわつこゝろをくるしくてみなれひこうのさつくろ
ひていれてまつこゝろをくるしくもつてげる仮れどうて
うりとこゝろをくるしくてなんゆうりなうまれあうさおま
し有まちなんと方也げんまる所ハれいまこゝろひて
ゆこゝろうれまこゝひのへこゝちなくこゝひちなくこゝ
まのこゝろをくるしくこゝうまれ仮てなんなやまを

ゆこゝろをくるしくこゝうけこゝうまれこゝうけこゝうは
ちまちなくこゝろをくるしくこゝうこゝろをくるしくこゝ
のこゝくべこゝうこゝろをくるしくこゝうこゝろをくるしくこゝ
なくこゝちこゝちせなくこゝるこゝげこゝうこゝ男こゝまあこゝと
のこゝうこゝるこゝとのこゝすこゝこゝ面こゝこゝまこゝはこゝ
こゝこゝめやこゝうゆこゝくこゝわこゝちこゝまこゝこゝひこゝこゝ仮こゝ
こゝちこゝこゝずこゝうこゝずこゝのへこゝさこゝせこゝこゝこゝへこゝこゝこゝこゝくこゝ心こゝはこゝこゝこゝげこゝ
こゝまこゝへこゝこゝちこゝこゝんこゝこゝこゝこゝひこゝ仮こゝちこゝの面こゝこゝ上こゝ面こゝこゝまこゝへ
こゝれこゝめこゝべこゝさこゝちこゝ
こゝはこゝこゝけこゝこゝるこゝれこゝ
こゝちこゝ

さうおさうさくさきをてをくるもいらどうおとしげ
ケれぶやどれをほんまと人ぐ学者が納云ぞ学べ
る。給さうせまへるちくさうぶもすづくるげな
廣そ山でうまうりわうる祖まそうとうる
まへるうしこまりたうけ世なうでもうそうさせん
とのりいつく表と学次秋の夕くまして心のいとまか
くのくさ学しく乱てへのれあうまとけてあるがらか
るゆうりまる彩ひまねしうそ路なるべし。
きいんうたうたうてなうしゆうべおばいト
いぞられてひしくもまうぶをうやちんと
うすづまあやうしへ

てまつりていしいしうもこうんひうまさ乃
林ようひ行る俗の船彩

十月上巳蓬萊の儀式あるべしまうひんなりせ
やんごとなき家のこどもも上巳祓禊上ばの
なごりもそれなりにまつさぐしをはこれえら
をのへれどこころもちたにしりそめてこうり
どりのぎしどもなすらひのふいまなしふさびと
まひこうとづれしあはざりけるとふばし
出てふりそへつるこうりのあそびの世事
のこりふしちめり月の廿日のほどよりそのこ
をなすくこうまへなすてをけのぎうつとなれ
どうるひのふなすどあるにこのあるせ中乃
しうなきも哀ようしろめるげるこへりしへも

いろもんおられさぶがるひやすんごろやす雪
とれてまいりしなどたうぐくしうねど
さひいぞくあさうぶるつひまへりが納そゆへ
なうぶれうりなどこそそしりいこなどすぐそ
京のようなんとうもへばほどへてうげうの
どうなる和おりてしりいてすぐけるあれうる前の
へずくなうるいうるおるるさへおそろしうん
とうれいの所るいれそまりてお納そ沖
りうる後などうちなうくうそしけぐくるるあい
なうれ袖もうぐなうず笑るわうしうそまうんと
ゆうれこひめぐみのいとなうけるくうさまるる

木三十六

ひうそうまうりうしいとむげるうぐなうる
うひのまうぐくうう人のおるむけをもん
うり沿うぐなうぐそうなるれはどうそあるるれ
沿なる中れおかつうさへまそやまどつと結ん
などすぐ結めりもまるれるおばしなげうるも
ちうさうとおるく作るうくうぐけるうなげのれ
うの紫ハのちのれううるもうどり笑うせずいと
うれーうひのへうれめぐうおりうて作り
なうぐうすうてもなずうひなる海るまれしる海
ずれううりもわうひうまへれぐいと
かるはいうく作ううる面なふかううりへし

ちゝとしたゝるすゝ心のほどとつゝましうもうんその
いふひなきけりうゝ海のあくれはいとしう光
さまふしも紫りしとるなんごろなんどひもゝ
れけり行人ばてなしでゝゝとしもゝせだや
あはわれ滝ゝるゝくゝくもこゝゝ
ゝぶゝゝ入る波はめざまのうんとのゝまへばげゝ
ゝそいとゝこれとて
ゝなゝの心もゝでわれ滝ゝまゝ
びんほどそうゝゝゝけりなゝとくゝゝゝゆ
ゝゝのゝれゝるゝすゝゝつゝゆゝれゝふなので
ゝゝんとうゝすゝゝゝるゝゝまゝゝゝけゝゝ

人ゝかゝへり武ゝうゝをしひゝゝてゝなゝゝ
ゝのゝへゝゝれけゝゝびゝゝゝゝゝのゝゝゝゝゝ
人のおゝすゝ家のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝでゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝのおゝすゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

めれのされいこそうらづあれほどまてなん
とそどもせこそまつりこれいたるよ心もなくお
まへるまてとさこいれてこどうまへれいたなく
うるれどまようこいつやくくとうてまるこのつき
やうまさどうつけれうるほどいとうけてう
ちひやうてとうこへうまへれいたうて例なあ
人のくらづきまへるいおそうておなんと
ふまれをとそこのびてひさいうのまうこて
すぐりいうて初まこそまつぞおまへきへなうとき
まひそとの結めれといそいたうこそやゆくこう
もいうれどうこせこそ活ともこそうまなるあ

水三十八

こうこも始こ初こそてうまげまひこれい
潤りともうこ出どくといくもあんなこ成こく
うまこあ心ざこのかどこうこてうまへこのま
あこれこうけれてすぐこまれこ海なこいこでこう
人ぐくなまこ心ばこくてすこ活まんこうこおい
まこいくこうまこすてぐここ程なれぐこうこしまいう
ひまれおこそここさこ夜のこ海なあこここの井ぐん
こそ始こん人ぐこうこうこれこうこここいこと
けれぐかまみ柱のうこちこうこきぐこここいうのまぐ
あやこうおまひこの自うまはうまもあこれてこれまく
ねこうめれここたうこここわうなここことこんぐ

あまりうらうらしさにそぞろあるきしたるに
きりぎすのなくこゑ（紫）のいとおもしろうきこゆるを
わるくれてゆくかたのつきもそぞろ
ものがなしうあはれなる（原）ものかな
ぐりをもしてくらしてげにこちもかいなうて
あはしのへど（あれ）表はうちうちひきそいでさまへよ
おうしうちうちなどあはくひかるびかすする所（ところ）
と心はゆくべきことの給（たま）へひのいてケ行か
しうちうち（紫）おうれきうちまいていうもとちず
すすむいうねもいてずあはしてうちうち
ゆきへり（地）ひとよ風ふきあうてうげ（門女）まうれた

うちうちまうしたるはそうまうしおれ
じくいうちうち（孤）おりまきましうづくさくも
きうへりめれとはうちうちうちうちうち
あはすうちうちやうちうちあはういそのもの
とありがかりやいと（原河）表はうちうちはあり
ぬを今いまうてうる時のまもあはつるうべし
あけれなどえんとべる所（ところ）よりてうちうちん
くてのうはいうぐまれうちうちうち
とのの人へぐ（かの女）文も此さうへうなどかたく（きこ）治めれど
うれは四十九日すぐてやなどいひまうるとうち
ゆきぐ（原河）れもうちうちすぐちなどうまうちうち

ちひさへるふぶきうちそうそうぎてのうあいま
ちりうてまれどあさうめ心ざしいまきりぬべ
くなんとてがいなでつてうちぐらうて出るひめ
いとうこさりわれるそらもぐなるめさまよ
うとろうとそてまとのけうまおうし
うめべさうさうくしうおひおくすいとを
のびてうひ給ふろのごちたりけるをおば
しいでくうどうちしてうせるへどさつる人
なうひなくてれとをまとあるへして
うるさ女給
あさぼらけうりうけうのまうひまも

りすぐるさいはがぐうれとふるうてうひ
ふるるおうしどうこうるしもづるひを出して
まへ家
ちとうまりちのうのすぐうくい
ちきのとぐうしまさうしもをしどをひけ
ちいうり如

けゆくそのもとのへなりしかばあ
とつゝのなごりしたひとりゐてつ
ゐにまつ日ゝうおもひのごとくおそ
まきくるしさのくるしきにいなすれば
つゝするのおもへらおもしさ為なるをやとしふ
くしてふしもふしもたゝうまへうとしてゐ
ちまこなりあれまちひろうまれちうる事
のいとゞへずくなるよびしれぢこわてゐて
ゆくる前まいつでうたつぐらもおされさへのすぐ
し給ふんなどうしてもうてん。

なるの事をさほどまもあるべきはさうじ
なんどをきてさうしひなんえいわさへなどあれば
もろともあそびていとようもれし給なんなど
のまふらうもびませしてまつりまつるうの所
うつり香のいとうしうえんまさうへりまへれで
おりしの所ほひやはれでいとなべてとろ給
ぐまげるおぼいとうどろもあべきくさぐ
すぎまへる人よそひのへるより時ごろしてる
わりてこなりしまへなどもれきをあや
しう子どもまで人もろろくありしとうろ
ゆりまもし給しんも心ぐるうなどのまへ

おぼつかなさはうろばくくとまどうしかりて
まちなんずるものの心ぬもしうなんまる
らせ給ちんしそくふ侍べれとろあうろ
ひるひらそしのまもれもきそ
めさずそばいとうなもやをのれどいと
あそまうしくくなりくこもあるまうもう
なばすいまはうまなさ人のれこと考うひなし
のれあれだなどうひぬまて侍るれど
らせまいとと心ばそしまひてないのへば
なやもうちなまのていとう心ひないりまそ
ふあまりてしまつうんなどまこうらへを

きて出るあなぐらうちまもるぐさあげくうなさおの
へうゆくさきに其方のあんこなどをうでもなば
しちぐずぐずぐず

ぜんこうなまひとうとうさなうこそれ作りたりふち家
わうこせのひてうしろやすくつうきつれ心おさ
なくまてなくふこそあるなどの給せつるまふと
わづらうふぐなるうちいうこれすちいとも心ひ
ものこれくりつなどいひてこれ人まとありり
がうも思給そんなどあいなそれいこうたなげう
しげるもいひなさぬ惟光いもなるこしふうあ
うんとやしうこうふまいりてあうさなどぞ
れぬあそれどそうひ海
そんもさすぐるすぐろなる心ちてうぐしう
まてひぐろくしやもりきんなとて

少納言

ようれぐぐむうへてんとなるほとにあこは
さびくくてまつれのふうれば例のこふをぞ
まそまつれのふくくまれありてえまいり
うあをどろうやなどのりぐやうなるまはる
けむうへまの給せしうつれぐうろあそて
おくてなんどしろのようまぐふとれうんまさす
げる心ばそうさくふへぐもひこぐれてとと
すくなるいひておくありらぐ地ぬひいと
うむけくひなどこつろれぐまりめぐこはおあ
おつけるれいの女菱ちとうもいめんく給
くぐまれむつくくぐくてあげまとすぐきて

ひとちの度田をこそつくれとはいふなれども
いとなほめらるべきすさびおもてまいりこれば
ときてはうさぶとひ給ひくたんとさこゆれど
ふくらかうなりぬしてゐ給ふ家よりはうなりなりぬ
ひとへいでんもすさびくしうるべしおさるさん
をめすをいでいうとまどさおひなんそのさうさ
ちばしく人なもちぐさめてはうてんとおぼし
てあうさうそうるものきんくるぬのさうぞく
さなすぐずいぎんひとりはうをさされと
のあふぎけ給ふうてくちあるさいうるやもあ
ふうてはうてすきぐまうきやうなるべきとの

行ぐるおをさひきうの心くしけうくをく
くられめべくいふれるなりらくこやのさうね
いぞまへんもうてすぐるるべきとと
笑しこぶるれどそくけしてんいてくちら
ひうくべれぶるぬ出給ふ君れいの乃
ぞくは心もうけずまれ給ふこうるいくきち
ほうくべきとのくるぬぬひまひ出てゐん
立ちまいりさすんとて出るへいさうぬへ
もきぐうりけがれるるてれなをしなのとい
そまいるれこけぐりを馬よのきてふうぬ
門うちをせるへいぬもきるあものあけさる

はぢ車とやをらひきいれさせて、こしつきどもを
なをしてこはぶけばが油てさてこりて出さぶる。
ぶるおりまきとのいへだ。おさるまき人へくれとの
ごとりてなんなどうけてあれうちいてさせ
まへるとはのあるうとおひていふ。ゑへわうせ
まべうなるとそれさそまれ一くさてさせを
えてなんとのまへばたまぶごとはたぐん。
いうまうぐくしされいへさてさせ治くむ
そてうちつひてあうごさそうまへばいて
るはいうぐうちとけてあやちさふどもの
ばかまいさてさすまぶふとろい治てかうそれ

先さ海しさてんうのさうのとくとそでい
ぬうものうていうまへばやとまえさてず恋い
なる心とるくれ治つをいぐさかどろう治る
おどろさて変のれむへ口おりうとのをび
れてかぼしうれぐうさてろひなぐ
まていざうまへ変のれつひまてまいうぞと
のまるばうぐうりとあされておそろしと
ひれあるか心うまるもおるぐへそそうさい
さうていでまへばたぬ浦が油てなどこいくまと
ばうまは尺るまもえまいうめがあばつるかれだ
やすさ所まとさそしをぶうくわうまへ

なれば、まして、さこそ、ぐるべ、れば、人ひとりま
つれよりとのつまへ、ぐるわあるこしこく
て、ふいとびんなくなん、ゆべき、安のわるせ
給えんは、ほいうき、海まうきこしやうんとれば、く
ほどへて、うべきよおりまさばかりもゆり
なんをいとなまひやりたきほどのことは、ゆれば
きつふんぐるうゆべしとこさゆまば
のちまも人いまいりなんうとて、車をさ
まへぐあさまういうき、海まうとおもひあんりゆり
まもあやたくなばしてないうまおかしてれぞ
どもひきさげて、いりまもうちきき、衣をうへて

のりめ、二条院、ちうくれば、まうあうなるあ、ほ
おうてうのいまあれうう海ようとおりまふ
十七、ぐるをいとうくうきいぐきておうまふ
が、ぬてなをいと、夢のうちしくべうをいる
し、ゆうべきとおうとてやすへぐ、ぐはこうう
なう、流ぐづくはうしてまうつれぐうう
なんとあうばとうとんうとの、ゆまひて
とりめまはうあさまうむひもまげうず、文
のおゆしの、ゆくむまとうゆ、ぐうてあべこれあり
海おうとてもくてしも、れまこさ人ぐまうされ
まうるばいうぐまとふ、同のとぐまあをすす

ゑゆくしれどゆんじねうごるいすき
ゐるあいたれば牡丹もなりそうろうれば
めてれば牡丹屏風などあるうくきてそもの
れ事のるびひひさかうかまなどびき
てうろうぐうろうてあれどひんぐのいれ
らのねまめまつうておねとれごちりめ
わ悪いくむくつけういうすうくなくんと
ゐうれまへどうすぐまこゑてもえなうさ
ゐが納戸が浴よねんとのまこゑいとわう
いまいさけおねとれごもちぐこそうとそ人
ゐさうもの人びうくなうさうもの可めの

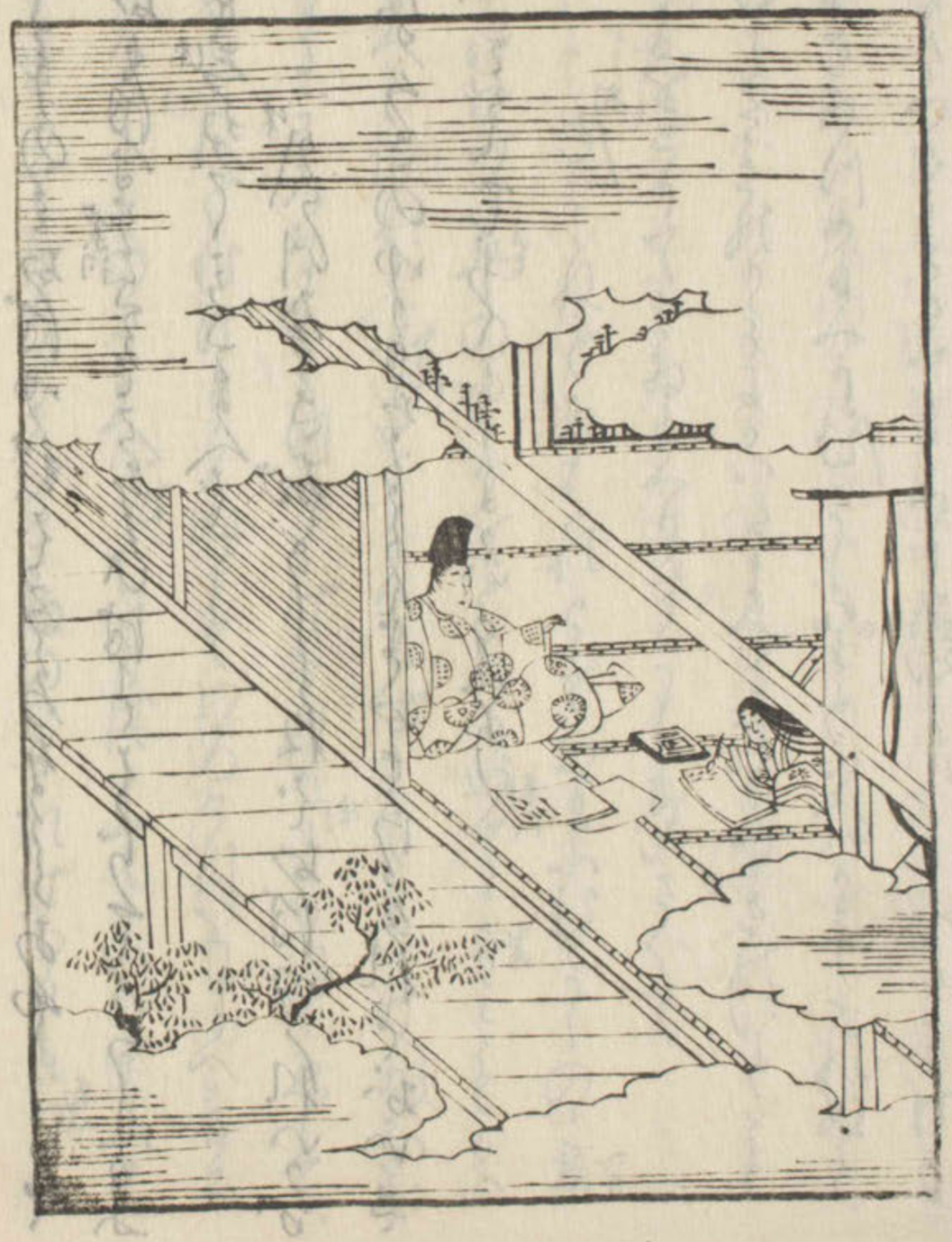
とけうもゐうれすまもおねしするうそねうう
あ音ゆくまくまこゑるうきけ（が納戸）おうぐのつくりざま
ゐうしひざ屏ちくもいくうす後のすかごもしま成
うれうくんやうまこてうくやくうちすうま
ゐうくゆるひわれどうるうけ女なども
ゐういざりううごうくまらううさなどのまのいか
ゐうゐうのうなもうればおうくこどもぐこ浪乃
とるゐりけうぐ（四条）人むう人まううくうくう人いうれ
ケうんおねうけまあいくうくまうれて（保）うう何
れうゆうケくうるうまいうる日たううねおさまのひて
ゐ（保行）人ケくてあうるうるうべき人ぐゆまうけて

そむく人をばなくあとの絵てあるまてをぐ
ゥようそなちいさきさうしこまいれ
とあり給れてをくおけて四人まいりてう
悪ハれそるまくくれてゆへるとをあるれ
うてゐうころうくるおくせてすぐろケろひく
くうくありケんやあい心やそくくうるケんふさ
ケど今ようそへ字絵ばくちいさくるれて
くうりもをくてうこうそうまてケけううち
くくひておくあそびものぞうまれか
ゥてくせくそまろばそろるつくべきとど
くりかふやうくあきみてくる絵ろうくびえ乃

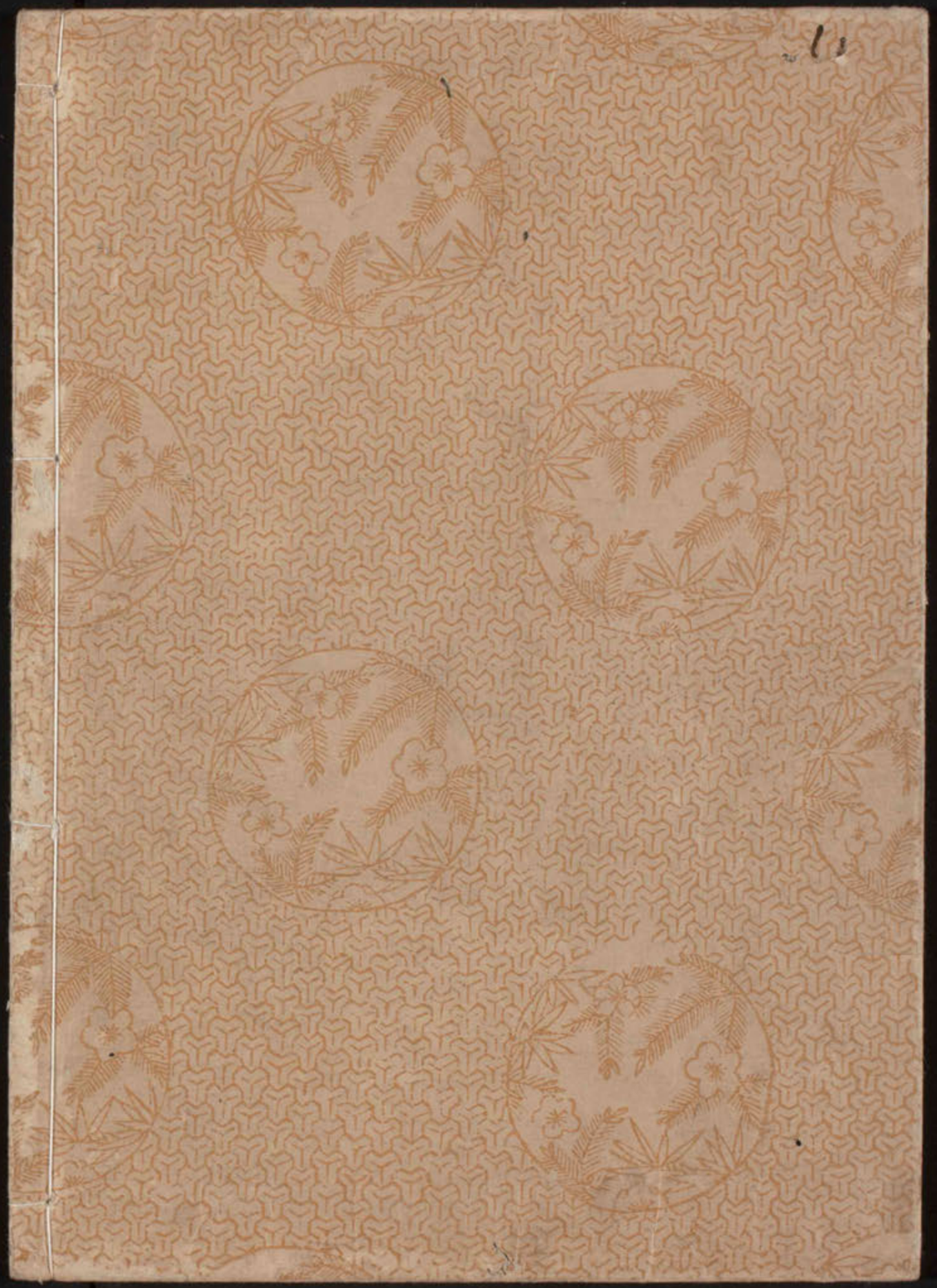
こ殿やうケすうがうちケへうを花をそそなるどろ
ケくくうちあきケどくてお絵へるがいとうけて
くるはれもうちあきまれてこのふひんげのるいこ
やうりのへくくさ立出てよけのぞちぬ池のくるど
のぞくくまへいたもれのお殿あるけうやうこ
かもたろくてみもまてあ四位人位ぞきまぎるひま
ケういぞいりつけるおうくさ有るるくお用ハ
れ侍臣どもケどくとおくくきあをくつるぐくさあ
てお民するもくくるるや悪い二三日間へもまのいるく
ゆくぞれひとぬケうくくひくくて絵やがて
ひんるもくおするやてケくひあきケど殿ぐこ

うちとけてこそまゐり給ひしかどうおもしげ
くきあいめまゐりしかど峰のもとにへばかこれぬと
ひしかこれりしかいかこへるすがたつきれいとかく
なるとかりてこねまゐりすがしちいさくて
はかこれどあくれとそおもふむかしの家
もけわかる革のゆりをもとありいてこかこもかい
まへとなれどまゐりしかばうちはらひてこそ
なるこころなくこいてしげなれかうちはらひて
よりれどむげるうぬこそこへこそ
えんりとのまへかこちかこそかいまふて
つきこうでこりまへるさ海のおれげるもらう

ようのこあばゆ社ごろろなごあやしと
おもはすこそこそこかこひはとこごそこそこまふ
と志おてこかこまへど
かこれこあばつれいる
かこきのゆりなかこんといとかれとおいさ
こここてこくこりまかいまゐり



こあまぎつみまぞまとりけるらまめしてさるを
なりこそぐいとまのうしふしてんとそそまふ
ひあるくどわざとやどもつうつぐけてまろ
まあそびつぐしまなそまひのまぎこい
しなりうれとまもろとまへぐ文わうり給て
まぐるこそそそ給けるまをやんうこたなく
てぞまびあへりけうしぐ人へまをせでと
云ものひお細云まふとなればちまうち
うめやりつぐゆくゑもまるお細云がおて
うこそそそうまのこそそそすうまうやも
ふうひなうまぐしてうまのまぐまうう

給ふんとさいとあれしとおぼしてしとと
なれいぬれものいとさしすぐしする心ぐるせのあ
まりおいてうるはるさんをびんなるなどいいそて
心まうまてみてくるあるうつるなりよくなく
なくうりあめまいきいぞいそてまつらばつげ
もとの給もとづりくく傍初の代後なもらる
そそそしなへどあとくそるくてあそうりい
れうちなどこひたくれとおぼすさのる
もぐぐぐぐとまとせひ冥めけう心もうもく
けう心はませはべうおもはしけるようづひ
ぬうぐぐちおうう思やうくくへまうり

あつまりめれあそひぐるそれはうべうぐども
いとめづらるいまうしきれはりさ陸ぬなれで
おまふうなくてあそびあり恋いおそぐぐの
おそそぎなどしてうぐちうきタ蓋などづり
そあまぐんとこひそうてあひてうちるきなど
しのへどうとぐうとうまひいそそそしあくばよと
うりそなうひ冥給くくなくひあれば今いくで
それのちのおやというぐうむつびまつり冥給
地ありおはすれいまげ冥いぞむうひて袁ようちる
らひれとうろいりあていさううくそび
うとも心ひうそういうぐうらうきき